いまを生きる

結城浩

Copyright (C) 1999, 2000 by Hiroshi Yuki

hyuki@hyuki.com

http://www.hyuki.com/ima/

目 次

1 幸せな結婚生活を送る秘密 3

2 まじめすぎる自分 5

3 子育てのヒント 7

4 淡々とした一日 9

5 20 代のプログラム、30 代のプログラム 10

6 なかよしのかえでの木 12

7 本を書かせてください 13

8 礼拝の意味 14

9 いま、どう答えるか 16

10 18 年前の自分といまの自分 17

11 ありがとう 18

12 新しいもの 19

13 しっくりくる感じ 21

14 人生の目的 22

15 **困難な状況の中で** 24

16 **あなたの信仰の通りになる** 26

17 **恋が終わり、愛がはじまる** 27

18 **恐れるな。わたしはあなたとともにいる** 29

19 **ハイネケンを飲みながら** 30

20 **夏の判じ物** 32

21 **教えるということ** 33

22 **彼女からの福音** 35

23 **最初の種は私が生み出しているのではない** 37

24 **ネットがどんなに便利でも** 38

25 **仕事の前に祈る** 40

26 **何となく不調** 41

27 **つらさの中で祈る** 42

28 **話を聞く** 44

29 **この世を旅する旅人** 46

1　幸せな結婚生活を送る秘密

結城浩です。こんにちは。きょうは、いかがお過ごしですか。

メールをありがとうございます。メールの中に、「幸せな結婚生活を送る秘密は何ですか」という率直な質問が書かれていました。この質問を読んで、私はしばらく考えていました。幸せな結婚生活を送る秘密は何だろうか、ってね。

ええと、最初に私は自分に聞きました。私は幸せな結婚生活を送っているかな？　答えは、はい、でした。私は結婚して十年目になり、長男もうすぐ6歳、次男もうすぐ1歳の子どもにも恵まれ、仕事も順調でとても幸せな結婚生活を送っています。神さまに感謝、です。

じゃあ、問題は何もないのかな？　と続けて自問すると、答えはいいえ、でした。子どももいて、仕事も順調そう、というのは家庭を外から見た人にもわかりやすい「幸せさ」ですよね。でも、もちろん、毎日の生活はそんなにシンプルじゃないです。

幼稚園の送り迎え、家事の分担、ごみ出し、部屋の片付け、家計のやりくり、ちょっとした言葉や感情の行き違い、子育ての方針、高齢になったときの親の介護、将来の住まい、ローン、保険、それから、それから、もっとプライベートで、このメールにも書けないような微妙でひそやかなこと…。毎日の生活はそういうごちゃごちゃで満ちていて、ときおり「やれやれ、どうなることやら」などと ため息をついてしまいます。

そんな中にあっても、やはり、私は、幸せな結婚生活を送っているのだと感じています。それは、なぜだろう。確かに子どもの存在は大きい。でも子どもが幸せのすべてではない。私は、幸せな結婚生活の秘密は、夫婦が「一致した基準」を持っていることではないか、と思うのです。

夫婦のあり方を一般的に論じるのは難しいな。偉そうだし。まあ、少なくとも、私たちはそんな風に考えています。

夫婦になるときに、耳がタコになるくらい「エペソ人への手紙の5章」を聞かされました。いま、このメールを書くために、私ももう一度読みました。特に5章22節〜33節ですね。確かに耳タコなのだけれど、ここがやっぱり夫婦の基準だな、と思い返します。幸せな夫婦生活の秘密は、秘密でも何でもない。言い古されている言葉を何度も思い出すこと、思い返すこと。

妻は夫に従いなさい…教会がキリストに従うように。夫は妻を愛しなさい…キリストが教会を愛するように。

実は「エペソの5章」を私に教えてくれたのは、結婚前の家内でした。「あのね」と彼女は言いました。「キリストが教会を愛するように、というのは、命がけで愛する、という意味なのよ」恋愛まっさいちゅうでしたから、彼女が語る聖書の言葉は私の深いところまで届いたのです。「そうか、夫は妻を命がけで愛さなくてはならないのだな」家内は自分の夫になる人に適切に情報を伝えたことになりますね。ふふふ。

結婚十年目にしてもう一度エペソを読み返すと、ここが夫婦関係を教えていると同時に信仰生活についても教えている個所だとわかります。（解き明かしをしてくださる聖霊に感謝）キリストと教会の関係を理解すると、それと同じような図式の「夫婦関係」の理解が深まる。夫婦関係について（体験的な）理解が深まると、その体験を通して、キリストと教会の関係を実感する。やっぱり、聖書ってすごい、と感じるのはこういうときですね。

あ、誤解がないように書いておきますが、私たち夫婦は（とても幸せですが)、完全な夫婦なんかじゃありませんからね。エペソの5章についても、いつもこの基準を守っている、というよりも、失敗するたびに何度も何度も立ち返っている、立ち返ろうとしている、立ちかえる場所を知っている、ということなのだと思っています。

結局、偉そうな話になってしまいましたかね。また、いつか、お話する機会があったらいいですね。それでは、また。主の祝福が豊かにありますように。（にっこり）

2　まじめすぎる自分

お手紙ありがとうございます。「まじめすぎる自分」「心から相手と話をしたいが、自分が作ってきた虚像が壊れない・壊せない」ということですね。

あなたが書いてくださった内容の一部については、私もよく理解できます。私自身も「私はまじめ」という印象を他の人に（われしらず）与えてしまうからです。あなたの表現を使えば「まじめな人だとレッテルを貼られる」ということになるでしょうか。

あなたがおっしゃるように、いままでの自分を全部捨てて、ゼロからはじめたくなるのもわかります。自分がやってきたこと、自分の存在そのものが、現在の自分を苦しめているように感じられるからですね。

まず、そのように感じる（感じている・感じたことのある）人は、あなただけではありません。多くの人が同じように感じ、苦しんでいます。私も（最近は少なくなりましたが）そういう感じを抱くことがあります。

自分の姿（レッテル）を変えるというのはとても難しいことですし、本能的に「恐い」と感じるものです。また、ある時から 180 度自分のパーソナリティを変えた振る舞いをするというのも、場違い、というか気まずい、事態を引き起こすものだと感じます。

実際、「私はまじめだ、という虚像を壊せない、どうしたらよいか」と悩むのは何というか、本当にまじめな証拠のように思います。ですよね？

ですから、まずは、あなたの「私はまじめ」という像は虚像ではないです。少なくとも 100%の誤りではない。では、あなたの苦しみはどこからくるかというと、「私はまじめ」という像からはみ出している部分、像からずれている部分も「あなた」として認めたい、認めてもらいたい、受け入れてもらいたい、という気持ちから来るのではないかと想像します。

一言で言えば、「私のすべてを、私の全体をそのままそっくり見て、受け入れてほしい」ということになると思います。違っていたらごめんなさい。

ということは、いままでの自分を全部捨ててゼロからやりなおす、というのは少し違うんじゃないでしょうか。そうではなくて、あなたが結城あてに送ってくださった、まさにその内容を、あなたが真にコミュニケートしたい相手にぶつけてみる、というのが第一歩なのかもしれません。

第三者として言うのは簡単だけど、具体的にどうするか、は難しいですね。

ふと思ったんですけれど、あなたは自分がどんな人間だと思いますか。まじめなところ、も含めて、こういう人間だ、あんな人間だという項目を書き出してみたらどうでしょう。汚い部分やきれいな部分、よい（と自分が思っている）ところやわるいところも全部、正直に書き出してみる。たぶん、矛盾するところもたくさん出てくるでしょうけれど、それはそれでいいです。

そしてその、矛盾もあり、いろんな要素を抱え込んでいる全体としてのあなた、それを受け入れてみましょう。「これが、今の、私だ」という風に。だって、それが今のあなたなのですから。そのように、いったん自分をぎゅっと

受け入れる。それはとても大切なことです。
　もしも可能なら、それと同じことを他の人、特にあなたが深く関わりたいと願っている人に対してもやります。あの人はこういうところもある、ああいうところもある、でも、それはそれとして、全体としての「あの人」をそのままそっくり受け入れる。受け入れようとしてみる。
　対話するとき、相手が心を開くかどうかは、こちらがわがコントロールすることはできません。相手は相手の人格を持っているわけですから。こちらがいくら心を開いているつもりになっても、相手は心を開いてくれないかもしれない。開いてくれるかもしれない。それは自分には決められません。
　でも、心を開き合ったコミュニケーションの前段階として、自分を受け入れる、相手を受け入れる、というのは（程度はいろいろですが）必要なように思います。相手が心を開く可能性があるのは、相手が「ああ、自分は受け入れられている」と本当に感じるときではないかと思います。あなた自身もそうですよね。自分を受け入れてくれない相手に対して心を開くというのは難しい。でも自分をすっぽり受け入れてくれる相手に対しては比較的心を開きやすい。
　（余計なことを言えば、あなたが結城あてにメールを送ったのは、結城があなたの言葉を何らかの形で受け入れてくれる、と思ったからですよね。それと同じです）
　自分が相手に対して「私は、あなたを受け入れます」というシグナルを送るためには、「聞く」という態度が必要です。相手の言うことに耳を傾ける。
　人は、愛された分しか、愛することはできません。人は、聞いてもらった分しか、聞くことができません。人は、受け入れてもらった分しか、受け入れることができません。
　ですから、人はみな、愛の源泉である本当の神さまと出会う必要がある、と私は思っているのです。
　話があちこちに飛びましたが、現在のあなたへの何かヒントにでもなれば幸いです。
　それでは、また。

3　子育てのヒント

主の御名を賛美します。

ほろほろビスケットというのは、食べるとほろほろっとくだけていく感じのもろいビスケットです。ミルクティにとても合います。家内は料理がとても上手です。

お手紙で子育てに関してご質問をいただきました。結城はいま子育て真っ最中なので偉そうなことは言えないのですが、現状のどたばたを少し書きます。

確かに、うちにはテレビは置いていません。これは息子が生まれる前からそうです。私も、家内も、結婚前からずっとほとんどテレビを観ない生活をしていましたし、結婚するときもわざわざテレビを導入しようという気持ちは両方にありませんでした。

ですから、息子はテレビがないのが通常の状態と思っていると思います。うちの息子もひとりでいい子に遊んでいるときもありますし、家内にまとわりつくこともあります。でも家内は（遊ぶときにはずいぶん遊びますが）家事で忙しいときは遊ばないので、息子の方では「そういうものだ」と思ってひとりで本を読んだり折り紙をしたりしています。最近は自分でいろいろ考えて創作オブジェを作っています。家内が体調が悪くて寝ている時などは息子はひとりでずっと遊んでいます。（ちらかりますけれど、静かにしています）。

息子はいま４歳で何でも親と同じことをしたがるので、うまいチャンスをとらえてお手伝いをさせています。家内はそれがとてもうまく、

- è ケーキの卵を割る
- è 牛乳や卵を冷蔵庫から取り出す
- è 新聞を取ってくる
- è お風呂のお湯がたまったかをチェックする、たまっていたら止める
- è コードレスホンの受話器をとりにいく、充電器に戻す
- è お米をカップで量って内がまに入れる
- è 炊飯器や食器洗い機のスイッチを入れる
- è 洗いあがった食器を cupboard に戻す

などは息子にまかせています。

次に、子どもの叱り方についてですが、これはとても難しいです。ちらかして片づけないとき（子どもって本当に片づけませんよね！）、私たちもつい「汽車いらないなら捨てちゃうよ」と言います。ときには本当にごみ箱に捨てます。あるいは「明日のおやつ抜き」になったりします。「子どもは叩かない」というのが私たちの方針ですが、あまりにも疲れているときなど、感

情的に叩いてしまうこともあります。そのときには、あとで謝ります。聖書では「子どもをおこらせてはいけません」とエペソ6章にありますが、しょっちゅうおこらせてしまいます。

反抗心を見せたり、わざと親を困らせたりすることはしょっちゅうありますが、できるだけ落ち着いた口調で「これこれはしてはいけない」「あなたがそんな顔をしていたら私たちはとても悲しい」という旨を伝えます。

これは私が個人的に感じているのですが、「返事」というのは大事な要素だと思います。息子が不機嫌なとき、名前を呼んでもすぐに返事が返ってこないからです。返事を返さないのは「あなたの言うことは聞きたくない」という意思表示なのでしょう。でもそれと同時に息子の中では「言うことを聞いた方がいいのだろうな」という思いもあるのだと思います。そういうときには私の方から「はい」と返事をしてやることもあります。そうすると、それに導かれるように「はい」と息子も返事をします。返事ができれば、意外にすっとこちらの言うことを聞いてくれるように感じます。

例えば、

私「お味噌汁、飲んでね」
息子「…（無言で向こうを向き返事をしない）」
私「はーい」
息子「はーい（とこちらを向き、ゆっくり飲みはじめる）」

という具合です。

でも、このような子どもとのやりとりもマニュアル化してはだめなのだろうな、と思っています。子どもとの付き合いは、普通の人間関係と同じで、パターン化しがちです。ダンスを踊りながら少しづつステップを変えていくように、付き合いかたもその都度変化させていくのがよいのかな、と思っています。何にせよ、親の忍耐はまことに試されますね。ガラテア書の御霊の実の中に「忍耐」が入っているのもよくわかります。

子育ては大変ですが、神さまから授かった子どもですので、すべて必要なものは神さまが備えて下さることを信じています。また子育てを通して、親である私たちも主に練られることも感謝です。それに加えて、子どもを見るにつけ、「親というのは本当にありがたいものだ」とか、「神さまも私たちをこのように見ているのだろうな」とかいろいろと思うこともあって感謝です。

ご家族のみなさまの上に神さまからの祝福が豊かにありますように。子育てのための油注ぎが豊かにありますように祈っています。

それでは、また。

4　淡々とした一日

結城です。

今夜は、パスタの入ったシチューとご飯でした。家に帰ると、もう息子は眠っていました。家内が今日一日あったことを話してくれました。

忙しいけれど、淡々と過ぎていく、そんな一日。

ではまた。

5　20代のプログラム、30代のプログラム

こんばんは。結城です。東京は、先日からちょっと肌寒い天気が続いています。あなたは、いかがお過ごしですか。

今日の土曜日は、朝からずっとプログラムを書いたりドキュメントを書いたり、『Java 言語プログラミングレッスン』（下）の校正をしたりして過ごしていました。もはや何が気分転換か、何が仕事か、何が遊びか、よくわかんなくなっています。

ずっとタイプをしているので、左手がまたちょっぴり痛くなってきました。ふみぃ…。

ええと、いまは気分転換として、このお手紙を書いています。いま、家内と息子は実家に帰っているので、私は一人で過ごしています。部屋の中は散らかり放題（ってほどでもないかな）ですが、まあ元気に過ごしています。

ふむ…。

私はいま 35 歳ですけれど、あまり 35 歳という気分はしなくて、20 代のような感じでいます…っていうか、あまり年齢を意識しないで過ごしています。感謝なことです。

そういえば「プログラマ 35 歳定年説」とかいうものがありましたね。40 歳だったかな？　まあどうでもいいですが

私はプログラムを書いて生計をたてているので、「プログラマ」と言っていいと思います。でも、まだ定年になる感じはしません。

もちろん、20 歳の頃の自分とはずいぶんプログラムの書き方が変わったように思います。文章が変わったのと同じですね。昔は、どんなプログラムを書いていたかというと、ひとりぼっちのきりきりしたプログラムを書いていました。非常に神経質で、あやうい均衡の上に成り立っているような、そんなプログラムを書いて楽しんでいました。

あ、でもそれは会社に入る前、一人でプログラムを書いていたころの話だな。会社に入ってからは、もうちょっと人の目を意識した（というか人に読まれることを意識した）プログラムを書くようになりました。具体的に言えば、プログラムのコメント（注釈）に配慮し、関数の名前や、変数の名前などにも心配りするようになりました。

最近はどうかな。最近は、よく言えばおおらか、悪く言えばいいかげんになりましたね。「まあ、動けばいいか」的に構えているところがどこかあります。以前は、絶対に正しく動くプログラムを書こうとしていたのですが、最近は、いろんなミスが起こっても、いろんなところでキャッチできるような、fool proof 的なプログラムを書いているみたいです。安全側に倒すようになってきているのですね。

プログラミングというのは、本当に文章を書くことと似ていると思います。そして文章を書くことは、自分のいろんな本性があらわにされるようにも思うのです。

話はそれますが（って、はじめからそれまくっているんですが）、私はとても自己肯定が強いように思います。クリスチャンになってからとみにその傾向が強くなっている。自己肯定的で、自己受容的で、でも固執しているわけでもなくって…。ああ、お気楽な性格なのかもしれません。もっと他者受容の度合いが強くなるといいなあ。

明日は礼拝です。礼拝に行くのはとても楽しみ。両手をあげて神さまを賛美する歌を歌って、悪いところを全部悔い改めてお祈りして、心を開いて、聖霊さまを心の内にお迎えして、きれいにきよめていただいて、新しい力をいただいて、自分の必要を祈って、いろんな誘惑から守られるように祈って、まだイエスさまの救いを知らない方のために祈って、牧師先生を通して神さまの言葉である聖書のお話を聞き、ともかく、神さまとの交わりの中で喜びに満たされるひととき。楽しみ楽しみ。

おっとっと、また自分のことばかりながながと書いてしまいました。あなたはいかがお過ごしですか。体調の方はいかがですか。寒くなったり、どんよりした天気だったりしますが、体調も、それから気持ちも守られますように。

いまあなたが向かっている問題が何かあるならば、神さまのよき導きの中で、本当によい解決が与えられますように。（たとえそれがどんなに大きなものでも、神さまに解決できないことはありませんから）忙しいときには休息が、孤独のときには慰めが、イエスさまによって与えられますように。心からお祈りいたします。

いつも、つたない私の文章を読んでくださってありがとうございます。それでは、きょうはこのへんで。またお手紙書きますね。

お時間がありましたら、あなたの様子も教えてくださいね。あなたのお話を聞くのを、私はとても楽しみにしているのです。

それでは、おやすみなさい。

6　なかよしのかえでの木

結城です。ちょっと一休みです。

子供のころ、庭にはなかよしの楓（かえで）の木がありました。大きな木で、よじのぼったり木の上に座って遠くを見たりすることができました。幹や枝の形をよく覚えているほど仲のよい木でした。

でも、物置小屋を庭に立てることになり、その木は切り倒すことになってしまいました。そのときは悲しい気持ちになりました。

いま、実家に帰っても、もちろんその木はありません。でも、いつでも、思い出すことができます。ほんとに。

7　本を書かせてください

結城です。編集長との初校の読み合わせから帰ってきました。結城が入れた朱を編集長が印刷所に戻し、その朱が反映された校正が「再校」となってまた出てきます。それをまたまた読み読みして、朱入れをします。そしてそれで著者レベルの校正はおしまい。あとは印刷所と編集部のやりとりになって、いろいろあって（よく知らないんですが）本が出来上がるのですね。

自分が書いた本が書店に並ぶ、ってうれしくて感謝なことですが、何だか不思議な気分がいたします。不思議、としか表現できないんですが。

思い返すと、いつだったかなあ…初めての本を書こうとしているときだったかなあ…風が吹き抜けるホームに立って、「本を書かせてください」と神さまに祈っていたのを思い出します。いまは当たり前のようにして書き下ろしの書籍を書いていますが、あのときの気持ちを忘れてはいけないし、祈りをかなえてくださっている神さまの恵みを忘れてはいけないのだろう、と思ったりします。

わたしたちは、思い通りにならなかった祈りは忘れなくて、思い通りになった祈りは忘れがちなものですね。

あなたの今の願いは何ですか。

あなたの一年前の願いは何だったでしょう。

あなたの十年前の願いは何だったでしょう。

それでは、そろそろ。いつも私の話をゆっくり聞いてくださって、ありがとうございます。Web もいいけれど、メールもなかなかいいものですね。

8　礼拝の意味

結城です。

朝は教会の礼拝に参加し、それから家族みんなで買い物をしました。朝は雨が降っていたけれど、昼頃は雨も上がり、曇り空の中にも晴れ間が見える天気になりました。

家で小さなおにぎりを３つ作っておき、町を歩いていてお腹がすいたときにぱくぱく食べました。それでもお昼過ぎにはさらにお腹がすいたので、フレッシュネスバーガーでハンバーガーを食べました。

教会に行きはじめてまもないころは、礼拝の意味がよくわかっていなかったように思います。牧師さんのメッセージが大事なのはわかっていたけれど、その前の讃美歌が重要なものだとは思っていませんでした。神さまが賛美の内に住まわれることを知らなかったのですね。

神さまのことがよくわかっていないとき、礼拝、というのを単なる講義か講演のようなものとして考えていたように思うんです。牧師が「いいお話」をする。聴衆は講演料として「献金」をする。そんな図式でとらえていたように思います。（もちろん、その当時はそう意識していることにも気が付いていなかったんですが）

でも今は、礼拝というものをずいぶん違うものとしてとらえるようになりました。礼拝の中心にいるのは牧師ではなく、神さまご自身であること。講演を聞きにいっているわけではなく、私たちが礼拝に「参加」し、神さまを「ほめたたえ」に行っているだということ。そして、目に見えるものの働きだけではなく、目に見えない「霊」である神さまが「ほかでもない私自身」に働かれるのだということ。…うーん、うまく言い表わせないんだけれど、そんな感じです。

私たちは、なぜ目に見えるものに左右されるのでしょうね。罪が入り込んだのも目に見えるものに惑わされたからでした。

エバの場合でも。

> **「そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。」（創世記** 3:6**）**

ダビデの場合でも。

> **「ひとりの女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。」（サムエル上**　11:2 **より）**

罪が目から入ってくるのに対し、信仰は聞くことからはじまるようです。

いま家内は裁縫をしています。同じ机の上で、息子も裁縫（のまねごと）をしています。私は白いソファでリラックスして、あなたに手紙を書いています。

いつも、とりとめもない話を聞いてくださってありがとうございます。では。

天の父なる神さま。御名を賛美します。
この手紙を読む方の、今週一週間の働きをお守り下さい。
主がいつもともにおられますように。
人間が考える道ではなく、神さまが正しい道をお示し下さい。
聖霊様が私たちを導いてください。
イエスさまのお名前でお祈りをいたします。
アーメン。

9　いま、どう答えるか

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしを誰だと言いますか。」（マタイ 16:15）

信仰告白って、プロポーズに対する返答なのだな、と思う。人生の内で何回か（何回も）、そういう重大な問いに答える局面があるのだろう。

「わたしと結婚してくれますか」

という問いを受けたとき、自分が「はい」と答えれば結婚することになる。自分が「いいえ」と答えれば結婚しないことになる。あたりまえなんだけれど、この一ビットの返答が何て大きな意味を持つことだろう。何て大きな違いを生むことだろう。

どう答えるかは、自分の意志にかかっている。過去がどうとか、未来がどうとかは、関係がない。いま、その問いに何と答えるかが重要なのだ。

シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」（マタイ 16:16）

10　18 年前の自分といまの自分

おはようございます。昨晩から雨が降ったり止んだりを繰り返しています。あなたはいかがお過ごしですか。

18 歳で一人暮らしをはじめたころ、手紙をよく書いていました。Email ではなく、手書きの封書です。書き出しはたいてい、「いかがお過ごしですか。僕はいまこんなことを考えています…」というものでした。

（今、あれが 18 年前だということに気がついて、ちょっと感慨にふけっていました）

昨日、４歳の息子がビデオをひっぱりだしてきて、自分の赤ちゃんの頃（1 歳）を見ていました。「アンマ、アンマ、アンマンマ」と言いながらハイハイしているのを見て、息子は「アンマ…」と赤ちゃんのまねをしていました。自分の真似だから、そっくりです。

18 年前の自分といまの自分で、基本的なトーンは変わっていないと思うのですが、キリストを信じる信仰が恵みとして与えられたこともあって、私は 18 年前よりも今の方が自分のことを受け入れ、愛しているように思います。（ここでいう「愛している」は「ゆるしてやる」とほぼ同義です）

そして自分自身があまり「重たくない」感じがします。

自分がやってしまった失敗も、自分がなしとげたと思うことも、自分の中にとどまらないからかもしれません。失敗してしまったら、神さまに告白して、心から悔い改め、イエスさまの十字架によりゆるしを受ける。それで、どんな失敗も神さまとの関係においては解決。自分が何かをなしとげたとしても、それは神さまに栄光を返し、自分の手柄としないようにする。（それをなすための機会や能力はすべて神さまから来たものだから）

そうして、さらりと、次に進み、今日なすべきことを、感謝しつつやっていきましょう。

今日という日は、主が作られたもの。今日という日を体験した人はまだ誰もいない。神さまが素晴らしいことをなしてくださることを期待しつつ、今日という日を神さまに喜びつつ、歩みましょう。

11　ありがとう

結城です。いかがお過ごしですか。

昨日は一年で最高の天気だったのに、一日風邪で寝込むことになりました。

三人ともげほげほしていて、いらいらぴりぴりしていました。

ありがとう、って言葉が言いにくいのは、自分のことばかり考えているからかもしれません。

ありがとう、というのは恥ずかしいとか（恥ずかしいというのは自分の気持ち）

ありがとう、というのに違和感を感じるとか（違和感を感じるのは自分の気持ち）

視点を相手の方に移して、さらっと「ありがとう」って言えたらいいな、といつも思います。（だって、ありがとう、って言われて悪い気持ちになる人って少ないですから）

あ、でも最近、仕事で会う人に「ありがとう」って言って（にっこり）する練習をしているんです。練習すると意外とできるもんですねえ。

以前、家内から「もっと明るい声で電話に出た方がいいわよ」と言われて、なるほどなあ、と思いました。そういう意見、アドバイスって、ある程度年齢がいっちゃうと誰も言ってくれませんからねえ。

昨晩眠るとき、息子が「今日一日、ありがとう！」と宣言して布団に入りました。親が以前教えたことなんだけど、感動しました。親たちも声をそろえて。

「ありがとう」

これを読んでくださるあなたにも。

「ありがとう」

12　新しいもの

結城です。

何だか暑いですね。まるで夏のような天気です。体調を崩した関係で、雑誌の〆切が厳しくなってしまったのですが、担当の編集の方のご好意で少し延ばしてもらうことにしました。ありがたいことです。

体調は復帰しているので、無理をしないように注意すれば、何とか〆切もクリアできることと思います。

ソファに寝転んで、C.S. ルイスのアンソロジーを読んでいると、（このアンソロジーは奥さんから結婚前に贈られたもの）何とも言えない気分になります。まっとうなことを、まっとうなふうに考え、そしてそれを文章として表現できる人がいるのだなあ…という不思議な感慨です。

いつから、私たちは、新しいものがよいものだと思うようになっちゃったんでしょうね。新しくて、量が多くて、短い時間で、…というような視点でだけものを考えるようになっちゃったんでしょう。

宣伝でよく「新発売」とか「誕生」とかいう文句が登場しますよね。あれって「新しいものがよい」という暗黙の前提を使っているように聞こえるのです。

＃ ソフト業界がその最先鋒ですって…そうですね…

でも、本当はそうじゃない。古いものの方がよい場合が多い。なぜって、長い間の風雨にさらされているから。多くの人の審美眼にかなってきたわけだから。

「他の人は別に感じるかもしれないが、私はこれがいいと思うなあ」とか、「確かにそれは新しいが、私にはしっくりこないなあ」とか、そういう感覚って大事なように思います。

うーん、かといって、最近流行の「だれそれさんは〇〇にこだわっています」という言い回しはすごく嫌な感じを受けるのだけれど。

人から聞かれれば「私はこう思います」ということがはっきり言えて、（必ずしも理由は説明できなくてもいいけれど、理由を聞かれたらちょっと微笑むことができて）しかも、人から聞かれるまでは、自分からわーわーわーわー言わない、というようなのがいいなあ。

＃ …という自分の考えをわーわーわーわー言っている自分に気が付きましたが。

いつも、私の話を聞いてくださってありがとう。あなたが私の話を聞いてくださっていることが、私はとてもうれしいです。ほんとうに、ありがとう。

またお手紙を書きますね。

今日もし、つらいことがあったなら、神さまがあなたを慰めてくださいますように。今日もし、体で痛いところがあったなら、神さまがあなたを癒してくださいますように。

あなたの方で神さまのことを知らなくても、忘れていても、神さまの方では、あなたのことをよくご存知で、あなたのことを、こよなく、愛していま

すからね。
　イエスさまは、いつもあなたとともにおられます。

13　しっくりくる感じ

こんばんは。結城です。最近、なぜか夜更かしばかりしています。いまは、ええと、午前２時ですね。あなたは、いかがお過ごしですか。

眠気は波のようにやってくるのですが、何となく、眠るのがもったいなくて、ついつい、ぼうっとしながら、キーを叩いています。

確かに、20代のころよりも、30代の方が、こう…しっくり来ている感じがします。その「しっくりくる感じ」が信仰のゆえなのか、結婚したからなのか、仕事をしているからなのかは、判然としないのですが。

20代は、すごく自分自身を意識していたように思います。私が私であるゆえんはなに？　とか、自分オリジナルの何かがしたい　とか考えて、妙に焦っていたような感じがします。

あの時代って何だったんだろう。

いまももちろん、いまの課題（住む場所とか、仕事とか、子どもの教育とか）があるわけですが、なんかこう、気楽な感じです。うーん、それはイエスさまのおかげだと思います。

傲慢に聞こえるのかもしれませんが、何だか30代も半ばを過ぎてくると、「ああ、何をしてもいいのだ」という気持ちになってきます。もちろん、私はクリスチャンなので、神さまを畏れるわけですが、それはそれとして、神さま以外に私を束縛するものはないのだ、などとも思っています。（ええっと、説明がわかりにくいですね。ごめんなさい）

きょうは（きのうは）、何だかとてもざわざわした風が吹く天気でした。ＪＲもダイヤが乱れていたようですし、商店の看板が倒れたり、傘が飛びそうになったり、という天気。

早いもので、もう五月も終わりなんですねえ。

話題があちこち飛んでごめんなさい。文章を思い付くまま書いているからなんです。

あなたは最近いかがですか？お時間があるときにでも、近況を教えてくださいね。（もちろん、例によって、無理はなさらず）

私の手紙を読んでくださってありがとう。また書きますね。こうやって、何げない一言をやりとりできる相手がいる、っていうのは、いいものですね。

それでは、そろそろ、おやすみなさい。

14　人生の目的

こんにちは。結城です。いかがお過ごしですか。梅雨に入ったとか言っていたのに、何だか暑いです（東京は）。

『Java 言語プログラミングレッスン』（上）の発売日がすぎて、ちょっとほっとしています。今週末くらいから下巻の再校読みがはじまりますけれど。

『Java 言語プログラミングレッスン』は父なる神さまに捧げました。コンピュータに興味がない方でも、書店で『Java 言語プログラミングレッスン』を見かけましたら、謝辞の部分と各章のはじめと終わりに目を通してやってください。（家内はそこだけ読んだようです。「何か深遠そうなことを書いてるわね。ふふ」と笑っていましたが）

ネットのリアリティということをよく考えます。ネットは仮想的（バーチャル）な世界ですけれど、そこで暮らしている私たちは、はっきりしたリアリティを感じています（よね？）。ふだんネットに接していない、接したことのない人には、そのリアリティをうまく伝えることは難しいかもしれません。

もちろん、ネットのリアリティには限界があります。けれど、ネットが持っているリアリティは、いまのリアルな社会に欠けている重要な部分を補っているように思います。（補うだけではないですけれど）

個人個人がばらばらに生活を営み、生活時間帯が大きく広がっていて、なかなか人がふれあう機会が少なくなっているのを、メールや掲示板が補っています。マス向けの情報が氾濫して、個人の声が聞き取りにくくなっているのを、ホームページが補っています。

けれど、まずいこともあります。このネットという社会のリアリティ「だけ」を信じるようになるのは危険だからです。ネット中毒（って私かも）…の危険ですね。

ある（実生活側の）知人がこんなことを言っていました。

> ネットのつながりだけに慣れてしまうと、実生活のつらい局面で「ぐっと耐える」のが難しくなる。ネットでは「さっと身を避ける」「すっと身を引く」「姿を隠す」というのは比較的容易だけれど、実生活ではなかなか難しい。

確かにそうだと思います。実生活の人間関係はそう簡単には変わりません。

現代の私たちは、結構心が fragile になっている。傷つきやすく、痛みやすく、もろい。

私は礼拝を休んだり、お祈りをしない時間が続くと、特にぴりぴりした心になることが多いですね。まあ、当然ですが。

私はよく「人生の目的は愛だ」と気取って言うのですが、これはほんとうだと思います。人は一人で生きていくのはとても難しくて、人格的な交わりを必要とします。それは夫婦かもしれないし、友人関係かもしれないし、人格

的な神との交わりかもしれませんが。ともかく、人は一人で生き続けることはとても難しい。（一時的に一人で生きる必要がある場合もありますけれど）

クリスチャンの毎日は、神を愛し、人を愛することだと思います。神を愛し、人を愛する。神を信じ、人をゆるす。神さまから注がれる愛を受けて、それを人と分かち合う。それがクリスチャンの毎日と思っています。

（それができないことも多いのですが、それでもまた神さまに向かうんです）

がっくり来ているときや、目が回るほど忙しいとき、あるいは逆に、自分が何をしていいかわからなくて途方にくれているとき、神さまのことを忘れてしまいがちです。あるいは神さまのことを考えているふりをして、自分のことばかり考えてしまうのかもしれませんが。

自家中毒から脱出するには他者が必要です。ぐるぐるまわる自分の心から抜け出すには、自分の力では無理です。（自分の靴ひもを引っ張って泥沼から飛び出すのが無理なように）

信仰を持っている人なら、心を注いで、なりふり構わず主に祈る。わめくように、格闘するように、本音で、主に祈る。イエスさまは私たちの一番醜いところもご存知で、その上で私たちを愛していてくださるのですから、自分をとりつくろったりせず、そのまま祈る。

信仰を持っていない人なら…うーん、次善の策として人と話す。真剣な話でも、どうでもいい話でも、聞いてくれる相手に向けて、何かを話してみる。

ともかく、自家中毒から脱出するには自分以外の人格が必要です。

長い人生、いろんな日があります。けれどもきょうは特別の日。昨日はすでに過ぎ、明日はまだ来ない。私たちが自分の意志を示し、行動をするのは、今日、今だけなのですから。

あなたの今日一日が、神さまに祝福されたものとなりますように。すべての悪い思いから守られ、よい行いをすることができますように。悪いことすべてを大胆に悔い改め、ひとをゆるし、新しい一歩を進めることができますように。そして願わくは聖書に書かれている主なる神さまに出会うことができますように。救い主イエスキリストのお名前を通して祈ります。アーメン。

ちょっぴり長くなってしまいました。またお手紙を書きますね。あなたの最近の様子も（お時間がありましたら）お聞きしたいです。

ではまた！

15　困難な状況の中で

結城です。今日は仕事で少しくたびれました。ふう…と一息ついたら、何だかあなたにお手紙を書きたくなりました。今日はいかがお過ごしですか。

最近、結城のページにある「ロバ耳」(http://www.hyuki.com/roba/) という企画のことを思います。書かれた文章をわたしが読むのですが、返事はしない。どんな形の返事もしない、という変なページです。

このページのもともとのヒントは、昔アダルトチルドレン関係の掲示板にあった「レス禁止（他の人へのコメント禁止）」という注意書きでした。ちょっとそれが「目からウロコ」でして、「ああ、こういうのも『あり』なんだ」って思ったんです。

ロバ耳はたくさんの方がいろんなやり方で利用してくださっています。たとえ返事がなくても「誰かに自分の声が届いている」というのは、意味深いものなのだな、と思います。

返事がない、安心して話せることもあるのですね。レスがつかないということで、リラックスできることもあるようです。何を言っても怒られない。妙に心をゆさぶられるアドバイス（よいものであれ、わるいものであれ）もやってこない。そういう環境で解き放たれる心もあるのですね。

ロバ耳のような企画をやって、結城さんの心がいっぱいになったり、負担になったりしませんか？とメールでご心配いただいたこともありますが、まったくそういうことはないから感謝ですね。重いもの（重い思い？）はすべて「神さま」にお預けできるからかもしれません。

今日はコリント人への手紙を読んでいました。パウロ先生の文章は力があってリズムがあって、とても好きです。思い返すに、私がまじめに聖書を読みはじめたのはいまから 10 年ほど前 (!) になります。創世記を読んだり、マタイによる福音書を読んだりしていたのですが、一番心にしっくりきて「ああ、そうだ、そうだなあ」と思ったのがローマ人への手紙でした。後ほど、あの手紙が異邦人のために書かれたものであることを知り、とても納得したのを覚えています。「ああ、これは私の救いのために書かれた手紙なのだ」

で、コリント人への手紙第一。13 章の愛の賛歌や、異言と預言の話など、興味深い手紙なのですが、この手紙は道徳的に、また性的にも非常に乱れた教会に向けて書かれたものですよね。パウロ先生は厳しくも愛をもって教え、戒め、諭しているわけです。でも、私は今日この手紙を読みながら、別のことを考えていました。乱れた教会があった。しかし神さまはそのことを通しても素晴らしいことをなさった。その教会へ向けた手紙という形で神さまの御心が現代の私たちに届くようになさった。そんなことを考えていたのです。

もちろん、悪いことを正当化したり、ごまかしたりする、という意味ではありません。人間にはとんでもない事態、非常に困難な状況のように思われても、決して落胆したり、絶望したりしてはならないなあ、と思うのです。失敗や困難は確かに失敗や困難なのだが、そこを通しても神さまは驚天動地の

大逆転を行われる、と思うのです。神さまの思いは、確かに人間の思いをはるかに越えておられるのです。

失敗や罪の結果、失われるものも確かにあります。そして一度失われたものは、そのままの形では取り戻すことはできません。アダムとエバの堕落によって失われた楽園は、いったん失われたのです。何事もなかったようにそこに帰るわけにはいかなくって、イエスキリストの十字架という驚天動地の大逆転を必要としたのですね。そのような、人間の想像を絶するようなことが、神さまのなさり方なのだと思います。

ぱらぱらと雨が降ってきました。気がつくと、もうこんな時間なのですね。

あなたの今日はどんな日でしたか。どんなものを食べ、誰と会って、何を思いましたか。楽しいことは何かありましたか。困ったことはありませんでしたか。もうすぐ今日も終わりですね。一日の終わりに、こうやってあなたにお手紙を送ることができるのはとてもしあわせです。

それでは、また。おやすみなさい…

(にっこり)

16　あなたの信仰の通りになる

結城です。

ここ二、三日いろいろと思うことがあり、祈ってみたり考えたりしていました。どうも自分の中でしっくりこないものがあったのですが、今朝、家内に話したらすごく気分が変化しました。別に家内がすばらしいアイディアを出したわけでも何でもなくて、ただ「ふんふん」と聞いてくれて、ときどき「これについてはどうなの？」と問いを出し、そして最後に「うん、じゃあ祈っておくわね」と言っただけなんだけど。私の心の中の重たい部分がほとんどなくなってしまったのを感じました。

人格的な交わり、なんて書くと重たすぎる表現だけど、それがぴったりします。私の方も、家内が愛を込めてていねいに聞いてくれることを期待し、信頼し、思っていることを全部話す。心を開いて。家内は家内で、簡単に決め付けたり反対したりせず、まずはじっくりと全部話を聞いてくれる。そのような「交わりの時」がすぎると、何だか問題の大半はなくなってしまう。そのようなことを実感した、今朝のひとときでした。

もちろん客観的には、問題は変化していないのかもしれないですが、でも、問題が根元から吹き飛んでなくなっちゃうんです。

神さまへの祈りについても同じように思います。愛をもって聞いてくれる人間が一人いるだけで、こんなに変化するならば、完全な愛をもって聞いてくださる神さまに祈るとき、どんなに大きな変化が「私の」身に起こるだろう、と私は考えます。そして期待して、信頼して、心の中も全部さらけだして祈ろうと思うのです。

あなたの信仰の通りになる、というのが祈りの原則です。

私の祈りは聞かれない、祈っても現実は変わらない、という（不）信仰を持っていればその通りになる。いや、神さまは最善をなさり、私の祈りを必ず聞いてくださる、という信仰をもって、いつも祈りたいと思っています。

人間だってそうですよね。「こんなことあなたにいっても何の意味もないと思いますが」という言葉ではじめる会話って、何かちょっと…ですよね。

やっぱり、「あなたが聞いてくださることが、私にとっては大きな意味を持つんです」という方がいいなあ、と思ったりします。

おっと、こんな時間だ。いつも私のたあいもないお手紙を読んでくださってありがとうございます。「あなたが読んでくださることが、私にとっては大きな意味を持つんです」

ではまたねっ！

17　恋が終わり、愛がはじまる

こんばんは。結城です。いかがお過ごしですか。ちょっとあなたとおしゃべりしたくなってお手紙を書いています。

今週の東京は何だかむちゃくちゃな天気です。ごうごうと雨が降ったかと思うと、むあむあと暑くなったりしています。主の守りのおかげで、私や家族の健康は守られています。感謝です。

いま、私は自宅のライティングデスク（ライティングビューローというのかな）の上にノートパソコンを広げ、ぱたぱたとタイプを打っています。タイピングに飽きたら居間のソファにごろんと寝転んで、ホフスタッターの『メタマジック・ゲーム』を読みます。蒸し暑いので、エアコンをぶんぶんかけています。

今日はいっしょに仕事をしている人からいろいろとクレームがついて、ちょっぴり「あーあ」という気分になりました。まあ、それなりにまともな返事をメールで返したのでよしとしましょう。なかなか仕事はつらいものです。

私のサイトにはたくさんのページがあり、いろんな企画がありますが、それらは結局「私がほしいと思っているページ」なのだな、ということに今日気がつきました。

例えば『祈りの小部屋』というページがありますよね。それは私自身が「こんな風にクリスチャンの友人に祈ってもらえたらうれしいな」と思ってできた企画のようです（はじめた当初はあまりそうとは意識していなかったのですが）。『ゆるしのページ』とか『共有日記』とか『subsession』とか『ロバ耳』とか…全部そうです。私自身が「ほしいなあ」と思ったページを作っているみたいですね、どうやら。

そうそう。書いている本もそうです。『Perl で作る CGI 入門』なんかは、まさに結城が掲示板を作ろうとして四苦八苦していた経験がそのまま本になっている感じですね。自分が、ほしいなあ、と思った本を書いているのです。

（話はそれますが、最初に結城が作ったのはアクセスカウンタでした。でその経験を元に「アクセスカウンタの作り方」というページを作ったら、質問メールが大量にくるようになってしまいました。ええい、それなら本を書けばいいや！　と思って本を書いたのですが、今度は質問メールが掲示板やチャットなど多岐に渡るようになっちゃいました。ははは…ええと…　まあそれもまた「飯のタネ」なので結構な話ですが）

私は文章を書くのが大好きです。何かこう…あることを理解したいとき、自分の心でしっかりととらえたいとき、私は文章を書きます。（親しい人がそばにいれば、その人に話すこともありますが）そのことについて文章を書いているうちに、ひとりでに「私は何を知らないのか」「何を知っているのか」がくっきりとわかってくるように思います。

あることについて文章を書く。そしてその文章を読む。うまくピピッとわかったら、私はその「あること」についてわかっている。…そんな感じがす

るのです。
　文章を書くとき、私は、主観的には「話をしている」つもりでいます。自分が話したいと思っていることをその順番通りにタイプしている感じがしています。実はあまり構成は考えていない。構成はあとからやっているのです。校正のときにね。
　文章ではうそをつけない。大量の文章はうそをつかない。ある人が書いたたくさんの文章を読めば、その人が本当には何を考えているのか、がわかるように思います。違うかな？　どう思いますか？大量の言葉は、ある真実を浮き彫りにするように思います。
　人間関係も同じかな。一週間に一回デートするだけの間柄ならば「ごまかし」も効く。けれど、夫婦となって、毎日毎日いっしょに暮らしていると、うそやごまかしは効かないとよく思います。自分の醜さは隠せない。そこで恋が終わり、愛がはじまるのでしょうか。
　おや、もう 10 時をまわっていますね。そろそろこのお手紙を投函しましょう。いつも私の何ということもない文章を読んでくださって、ありがとうございます。書いているのは私ですけれど、読んでくださるあなたがいるから書いているのですよね。心から感謝します。
　あなたの今日はいかがでしたか。最近思うことなど、そっと教えてくださいな。
　今日は水曜日。もう週の半ばですね。残りの日も、父なる神さまの愛、イエスさまの恵み、そして聖霊さまの親しき交わりが、豊かにありますように。
　それでは、また。おやすみなさい。

18　恐れるな。わたしはあなたとともにいる

恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。（イザヤ書 41 章 10 節）

こんばんは。結城です。今日、帰りの電車の中で、ふと上の御言葉（みことば）が心に浮かびました。

この御言葉は私の大好きな聖句の一つです。胸に手をそっとあてて、私はこの御言葉を小さく声に出します。

（恐れるな。わたしはあなたとともにいる）

そうすると、確かにイエスさまがわたしとともにおられることを確信し、そしていわれのない恐れはかき消えていくのです。

私たちはなぜ恐れるのでしょうね。恐れる。何かにおびえる。不安になる。きっと弱いからですね。でも私たちが弱いというのは真実です。私たちは弱くて小さい。愚かで、はかない存在です。

私もいろんなことをよく恐れてしまいます。恐れを感じるとき、いろんなものに逃げ込みたくなります。お酒とか、無意味な行動とか、人にあたったり、わざとちょっとしたいじわるをしたり、むやみとお金を使ったり…何か、こう、弱さをごまかしたいのですね。

でも、やっぱり神さまに立ち返るのが一番正しく、一番の早道です。信仰の基本に戻って、聖書を読み、細かなことから大きなことまで祈り、主を賛美する。神さまに心を開く。罪を告白し、悔い改め、ゆるしていない相手のことをゆるすと神さまに宣言し…神さまに立ち返り、自分の弱さをこそ神さまにさらけだし、自分が恐れていることをも、神さまに祈りを通してお話する。そして、静かに「聞く」。

（しもべは聞きます。主よ、お語り下さい）

そうやって、神さまとの親しき交わりを味わうとき、いつのまにか、自分が神さまに満たされていることを知る。

それは、愛する人とのひとときと少し似ている。今直面している問題がドラスティックに変化したわけではないのに、なぜか心が満たされて、強められて、励まされて、「よしっ」と再び立ち上がることができる。神さまとの親しき交わりは、それとよく似ている。（って、よく考えてみると逆なんですけどね、例えが私たちの存在の方が、神さまのアナロジーなのですが）

ともあれ、全き愛は恐れを締め出すとやら。聖書に立ち返り、いつもともにおられるイエスさまに立ち返り、神さまの愛に満たされるとき、どんな問題も、本当の問題ではありません。

おっと、調子にのって書いていたらこんな時間になりました。

おやすみなさい。また明日…。

19　ハイネケンを飲みながら

結城です。

一週間ほどネットから離れていたら、世の中は夏になっていました。今日は暑い一日でした。例によってだらだらと思い付くまま書いていきます。

小学生のとき盲腸の手術をして一ヶ月くらい入院していたことがありました。退院してもしばらく家でごろごろしていて、なかなか学校に行くことができませんでした。「ちょっと熱っぽい」「ちょっとだるい」といういいわけを日々考えて、学校に行く日を一日一日先延ばししていたんです。

長い間休んでいて、はじめての登校っていうのが、なぜかすごく嫌いなんです。３６になった今でもね。

自意識過剰、という点もちょっとあります。他の人は私が休んでいることなんかあまり気にかけていないのに。重大事のように考えているのは私だけなのに。

こういう「おっくうさ」とか「ちょっと心にひっかかる感じ」っていうのはなかなか、なくならないものですね。いまは「まあいいさ、こういう自意識過剰と小心さも私自身なのだから」とまるごと受け止められるけれど（主に感謝）、小学生のときはつらかったなあ。でも、そういうナイーブさというか、細かな心のゆれは、親にも伝わっていないんだろうなあ。

今日は礼拝後、一人で吉祥寺の町に行き、Jazz がいつもかかっているお気に入りの自然食のお店にお昼を食べにいきました。あまりにも暑いので誘惑に負けて、ハイネケンを飲みながら自然食をおつまみにしていました。来る途中で買った文庫本の『ポンド氏の逆説』（チェスタトン）をゆっくりと読みながら、ビールを飲みつつ、いろんなことを考えておりました。

いろんなこと？

生きること、死ぬこと、日々の生活のこと、親のこと、子どものこと、信仰のこと、ネットのこと、まあそういったことですね。

「世の中」っていうものについても少し考えていました。よく「世間では…」とか「世の中では…」という意見ってありますよね。あれってどのくらい信憑性があるのかなあ、などと。実体のない、亡霊みたいな「世の中」に振り回されたくはないなあ、などと思っているのです。

私はクリスチャンで、できるだけ自分がクリスチャンであることを公言しようとしています。そうすると、ときおり（思ったほどではないけれど）波風がたつときがあります。そういうとき、自分が中途半端な態度をとっていると、波風はけっこう苦しかったりする。けれど、旗色鮮明な態度をとっていると、意外とスムーズにことが進んだりする。不思議なものです。

旗色鮮明な態度、といっても偽善者くささぷんぷん、という意味ではなく、自分が何を基準として、何を第一としようとしているか、という立脚点をよく理解している態度という意味です。「聖書に書かれている神さまを第一とし、

神さまが命じているとおりに隣人を愛する」ことを目標として歩んでいる

ことを忘れない、ということなのでしょう。（もっとも、しょっちゅうずれるのですが…。それを「目標として歩んでいる」「歩もうとしている」のです）
　聖書を基準としていると、「この世」に流れている価値観の多くが「根無し草」であることがよくわかります。ドラマ、漫画、映画、小説、その多くが。それらを私もそれなりに楽しむけれど、その内容のなさ・浅さにはうんざりすることも多いのです。でも、私も聖書を学ぶ前は、そんなこと全く気付いていなかったから、自分が偉いわけではないんですが。
　私が特に嫌いなのは「好きという感情を抱いたら、何をしてもいい恋愛ドラマ」ですが、まあ、あまり嫌いなものの話を書いてもしょうがないですね。ごめんなさい。
　きっと明日から仕事しなくちゃいけないので、気がたっているのでしょう…やれやれ。長い間休んでいて、仕事はじめるのが、すごく嫌いなんです。
　（でも、イエスさま。これがいまの私そのままです。お受け取りください。そしてあなたの御用のために、あなたの御心のままにこの身を変えてください）
　あなたは、きょうはいかがお過ごしでしたか。また、あなたのお話も聞かせてくださいね。
　ではまた。おやすみ、なさい。

20　夏の判じ物

こんにちは。結城です。毎日、暑い日が続きます。あなたは、いかがお過ごしですか。

先日のこと。お昼頃、私はバス停でバスを待っていました。

暑いなあ、と思ってふと前を見ると、すらりとした女性がＴシャツを着て、大きな布のバッグを持ってバスを待っています。

彼女は素足に木のサンダルを履いています。ときどき、そのサンダルを片方づつ脱ぎ、フラミンゴのように片足を器用に曲げ、ジーンズに足の裏をこすりつけます。きっと汗をぬぐっているのでしょう。足の爪にはマニキュアが桜色に光っています。

彼女は、和風の朱い髪留めをして、長い髪をすっきりとまとめています。年齢は二十歳になるかどうか、というところ。

彼女はバスが来たのを見るとバッグを持ち直し、サンダルを からん と鳴らしてバスに乗り込みます。

私は、そのとき、彼女の持っている大きなバッグの中身が何なのか（はっ）とわかったのです。

もちろん、私は彼女のバッグの中身をのぞいたりしたわけではなく、私の考えが正しいかどうかは確かめようがないのですけれど。

夏の判じ物ですね。それでは、また。

21　教えるということ

ねえ。

気がつくと、もう夜になっていました。部屋はすっかり暗くなっていて、あわてて部屋の電気をつけました。

コンピュータのディスプレイに映るプログラムを読み、キーボードの上で指が文字を打ち出すのを眺めていました。

もうだいぶ疲れたので「お仕事」のプログラムを書くのはやめにして、「遊び」のプログラムを書き始めようかと考え、ちょっと苦笑しています。

結城です。暑いですが、もうすぐ夏も終わりですね。いかがお過ごしですか。

最近はまじめにお仕事をしています。新しいノートパソコンを買い、楽しい毎日を過ごしています。画面が広いと心も広くなれるかな。そんなに簡単にはいかないですね。でも、文章の書き方に影響は少し出るみたいです。

メールマガジン『Perl クイズ』は読者から大きな反響があります。読者からの熱烈な応援メールを読みながら、やはり、私は「教師」なのだと思います。私の父は教師で、私にもその血が流れているのです。

家内に言わせれば長男も「教えたがり」だそうで、息子にもその血は少し受け継がれているようです。不思議なものですね。

文章を書く人間や個人ホームページを開く人間は程度の差はあれ自己顕示欲が強いことは否定できません。本を書くことだってそうです。自己顕示欲がある。でもそれだけでは文章は書けない。書きつづけられない。自分の中からだけでは、よきものは出てこないからです。

自家中毒を起こさずに、水ぎわで水仙の花にならずに、文章を書きつづけるためには、他者が必要だと思っています。自分を客観視する視点、自分以外の何か・誰か、自分に何かをフィードしてくれるもの、それがないと、本当に単なる自己満足（まあそれでもいいのですが）。

何度もあちこちで書いていますが、\Remember that the object of exposition is education, not showmanship." (by Jeã Ullman) 「説明（解説・執筆）の目的は教育であって、　ショーマンシップではないことを忘れるな」という言葉を何度も思い出します。

私は文章を書く。うまいへたは別として、文章を書きつづけていくと思う。そして私の書く文章は「教師」の文章なのだと思う。教えたがり、説明したがり、面白さやワクワク感を伝えたがる、そんな文章。

教えるときのことすら教えたがる (http://www.hyuki.com/writing/teach.html)。

考えてみれば、プログラムを書くというのは、コンピュータに対して「これこれこういうことをしなさいよ」と教えていることに他ならない。ふむ。ふむふむ。

教師のお手本は「イエスキリスト」です。イエスさまは救い主であると同時に教師でもあります（ヨハネ 3:2 など）。たとえ話のたくみさや、聞いている人の心のつかみ方という部分だけを見てまねるだけではなく、（それだけで

も大きなことではあるが）その生涯をよく見、イエスさまが何を大切にし、何を大事なこととして語られたかに目を留め、聖霊さまの助けを借りて聖書を読まなくては、と思う。

何かを教えるとき、ショーマンシップに立っていたら、（すなわち「私はこんなことも知っているんだぞ」という立場になっていたら）それはよき教師ではない。大切なことを見分け、そして生徒の本当に役に立つことを見分け、相手の必要を満たすように配慮しつつ語らなくてはならない。そうか、やはりここでも聖書の「愛」が基本なのだね。

えらそうなことを書いてごめんなさい。上で書いたことが自分にできるかどうかは棚にあげていますが、でも、私ができるかどうかはあまり問題ではないんです。イエスさまに対する信仰をしっかりともって、聖書に忠実に歩もうとする意志をもつことが大切なんですし。

人生を歩むことを高い山にのぼることにたとえたのは C.S. ルイスだっただろうか。高い山に登る。自分の足でさっさと登れる人もいるし、なかなか登れない人もいる。でも、自分の足で頂上までいけるかどうかは問題ではない。だって、本当に求められているのは、山の頂上にたどり着くことではなく、なんと、そこから天に上ることなのだから。人間の足で登れるのは、たとえ登れたとしても頂上までだ。だから、山に登っている途中、誰が上にいるか、誰がまだ下にいるかは問題ではない。

天に上るためには天与の翼が必要だ。信仰という名の翼。それは人間の努力で得るものではない。

イエスキリストの恵み、父なる神の愛、そして聖霊の親しき交わりが、あなたの上に豊かにありますように。

明日は聖日です。おやすみなさい。

22　彼女からの福音

結城です。いかがお過ごしですか。

月末は仕事が山積みで、なかなかつらいものがあります。仕事に対して及び腰になると、取り掛かるのがついおっくうになり、悪循環に入ってしまいます。もともと、文章を書いたりプログラムを書いたりは、好きでやっている仕事なので、取り掛かりさえすれば、割合にスムーズに進むのです。でも、取り掛かるまでが大変。手を洗ったり、ソファでごろごろしたり、お祈りしたり、まあ、いろいろと、ね。

今晩はもう仕事はしないので、ビールが入っています。机の上で頬杖ついて、仕事のことを考えたり、家内のことを考えたり、あなたのことを考えたりしています。

彼女（今の家内）と付き合っていたころ、私はたくさんのラブレターを書きました。いまのインターネットの日記の更新頻度よりも高かったですね。家内と私は遠距離恋愛でしたから、（電話もしましたけれど）ラブレターはとても大切な通信手段でした。

ラブレターの中には、互いのことや信仰のこと、それに毎日のたあいもない出来事などを書いていました。

そのころ、私は求道中で、すでにクリスチャンだった彼女（家内）から、多くのことを学びました。彼女も熱心に本を紹介したりしてくれました。三浦綾子さんの三部作もそのころ読みました。チェスタトンも、C.S. ルイスも、彼女の蔵書から借りて読みました。

そのころ私は、彼女と結婚したいという気持ちを持っていました。そして、またイエスキリストを自分の救い主として受け入れる気持ちも固まっていました。「私は彼女と結婚したいからクリスチャンになるのか、　それともそういう思惑なしにキリストを信じているのか？」などと自問したものです。まあ、若かったと言いましょうか。でも、それはそのときの自分にとっては大切な問いでした。

細かい経緯は覚えていないのですが、聖書のヨハネ 4:42 が解決だったように思います。確かにイントロは彼女だったかもしれない。彼女を通してイエスさまのことを知り、彼女と結婚しようと思ったからこそ、彼女が大事にしているものを知りたいと思ったのだ。しかし、いまや、私は「自分で聞いて信じている」のだと気づいたのです。

そのとき、私は、よく教会で言われるフレーズ「イエスさまを自分の個人的な救い主として受け入れる」の「個人的な」という意味をはっと悟ったように思います。神様と自分の一対一の関係、イエスさまと自分の「個人的な」関係の意味を。信仰は強制ではない。他の誰でもない私が、自分の耳で福音を聞き、そして主の恵みのうちに信じることができたのだと思ったのです。

若き日にあなたの創り主を覚えよ、と聖書にあります。私が信仰を得たのは 20 代の前半でした。もし、もっと早くイエスさまの救いを信じることが

できたなら、また私の人生は変わっていたかもしれません。しかし、人生に「もし」はない。神の時は最善の時。私があのとき、彼女から福音を聞き、聖書を学び、信仰を得、そして洗礼を受けることができたのもまた、神様の大きな計画の中にあったのだと信じます。

毎日、忙しかったり、あわただしかったり、途方にくれたり、頭を悩ませたり…いろんな日があります。いろんな時があります。しかし、それもまた私の人生なのだと思います。神様が与えてくださった貴重な一日、貴重な人生。なかなか自分の思うように生きることはできないけれど、自分が願うとおりではなく、神様が願うとおりに生きたい。

聖書は、神様からのラブレター。

いつも私の手紙を読んでくださって、ありがとう。おやすみなさい。

23　最初の種は私が生み出しているのではない

結城です。今日はとってもいい天気でした。

好きなことをしてお仕事になるというのは、幸せなことだと思います。でもそれは別に私が偉いからでも何でもなく、神様が与えてくださっているからだなあ、とつくづく思います。

たとえば私がプログラムを書くとき、自分の心を探ってみると、いろんなものを思いついたり、問題を解いたりする根本のところは、自己の制御を離れているように思うんですよ。文章でもそうです。なぜそのような文章を思いつくのか、どうしてそういう文章を書こうと思うのか、最初の「種」というか、生まれてくる最初の点、というのは、私が生み出しているのではないように思うんです。

だから、いつも、神様への感謝を忘れずにいたいな、と思います。神の国とその義を第一にする、とか、神を信じ、人を愛する、とか、聖書を読み、祈り、礼拝に参加し、とか、そういう基本的なところをいつも守っていかなければ、と思うんです。初めの愛から離れないために。（もちろんそれらは人間の力ではできないわけですが）

いつも、私の独り言を聞いてくださってありがとうございます。あなたはいかがお過ごしですか。体調はどうですか。

それでは、また。

24　ネットがどんなに便利でも

こんばんは。結城浩です。

何だか毎晩寒いです。家内と息子たちはまだ実家の残務整理をしています。

最近の私はどっぷりとプログラミング言語 Perl に浸かっています。プログラムを書いたり、本を書いたり、連載の原稿を書いたりしています。つたない文章ですけれど、自分が考えていることを言葉の形にするのはとても楽しいものですね。

毎日ホームページを更新していますが、数年前には自分がこんなにホームページに「はまる」とは思ってもいませんでした。もっとも、ホームページを公開することもそんなに一般的じゃありませんでしたけれどね。

ホームページ上でいろんな企画を考え、CGI を作ったりメールを出したりしていると、たくさんの人とのやりとりがあって楽しいですね。また、自分自身についても、意外な面を発見したりして、なかなか充実した毎日です。

ネット上の性格と実生活の性格が違う人もいるかもしれませんが、結城はあんまり違いがないなあ、と思っています。そういえば、仕事をしているときと家でのんびりしているときもあまり違いがないと家内が言います。

何回か、会社で仕事をしているところに家内を連れて行って、「夫の仕事の現場」を見てもらったことがあります。私としては、家庭とは一味違う自分の姿を見てもらいたい…照れつつも…という気持ちがあったのですけれど、家内の目には「あまり違いがない」とうつったみたいです…ううむ。まあ、それはそれで楽なものですが。

町を歩いていると、普通の人が「ホームページ」だの「メール」だのと言った話をしているのが耳に入ってきます。そんなに一般的なものになっちゃったんですね。

でもやはり、インターネットがどんなに便利でも、そこに居るのは人間たちなのですよね。それぞれに生活があって、うれしいときや、悲しいときや、怒ったり愛したり裏切ったりしている。ネットを介したからといって悪が善になるわけでもなく、善が悪になるわけでもない。ネットは、ただ、人の活動を増幅するだけなのかもしれません。

あなたは最近、いかがですか。どんな毎日を過ごしていらっしゃいますか。

> 天の父なる神様。御名を賛美します。
> 2000 年が始まって早くも一か月がすぎました。
> 本当に時間がすぎるのははやいものだと感じます。
> どうぞ主よ、あなたが私たちの歩む道をはっきりと照らし、
> あなたの御旨にかなう生活をすることができますように
> お守りください。
> うれしいときも、かなしいときも、どんなときも、
> いつも主におゆだねし、

平安のうちに過ごすことができますように。
心の傷や不安、焦りや思い煩いは、
すべて全知全能の神様におゆだねいたします。
主が最善をなしてください。
イエスさまのお名前によって祈ります。
アーメン。

この手紙を通しても、主の栄光があらわされますように。
それでは、おやすみなさい。よい夢を。
（にっこり）

25　仕事の前に祈る

こんばんは、結城です。いまは日曜日の夜です。もう少しでテレホーダイの時刻です。この週末はいかがでしたか。

私は、この土日はずっとプログラミング言語 Perl に漬かっていました。Perl の本の書き下ろし原稿を書いているのです。いつもの通りプログラミング言語の入門書です。入門書だから内容は簡単なのですが、書くほうにとってはちっとも簡単ではないですう。

難しい内容の本なら、読者の前提となる知識もそれなりにあるので、説明を「はしょれる」んですよね。でも、入門書ではそれはできません。

かといって一つ一つの専門用語を正確に解説していたら、それは退屈極まりない厚い本になってしまいます。相手にあまり知識がない前提で、正確さを失わず、けれども退屈させずに説明する…入門書を書くのって本当に難しいといつも思います（そういうのが好きなのですが…テヘヘ）。

喫茶店に行って書き、家に戻って書き、また喫茶店に行って書き、家に戻って書き、というのを繰り返しています。何とか山場を早く越してほしいものです。

まだ一冊も本を書いていない頃、「本を書く」という仕事は、途方もなく難しいように感じられました。はじめに書こうとしたのはプログラミング言語 C++ の本でした。８割方書いたのですが、完成させることはできませんでした。いまでもその原稿は取ってあります。それは結婚前のことでした。

よき伴侶にめぐりあい、よき編集者にめぐり合い、何冊か本を書きました。読者からの好意的な葉書は何と大きな励ましか！いまも、もちろん本を書くという仕事はとてもつらいのですけれど、（とても、とても、とても、とても、とても、つらいのですけれど）読者からの励ましが、大きな支えになっているように思います。ああ、私のつたない文章でもよろこんでくださる人がいる、と思うと、今日も仕事にむかうことができるのです。

つらいとき、というのは自分の方に意識が向いているときなのです。「うまく書けなかったらどうしよう」「不正確だと糾弾されるのではないか」「間違ったこと書いたらどうしよう」もちろんそれも大事なときもありますが、仕事そのものではなく、自分のメンツとかプライドとかを守ろうとするとき、すごくつらくなる。当たり前ですよね。仕事の質をよくしようとするのではなく、自分の心を守ろうとしているのですから。それは大変です。

だから、やはり、仕事の前には神様に祈ることが必要なのだ、とつくづく思います。いったん自分を捨てるために。いったん自分に死ぬために。神様に意識を向け、読者のことを思い、そして淡々と今日の分の文章を書き綴ればいいのですよね。

いつも私のひとりごとのような文章を読んでくださってありがとうございます。あなたに読んでいただけて、この文章もしあわせです。私もしあわせです。では、おやすみなさい（にっこり）。

26　何となく不調

こんばんは。

夜になって、くたびれて、もう何もしたくないなあ、と感じながら、でも心にあることを何か言葉にしたくて、こうやって、あなたに手紙を書いています。あなたはいかがお過ごしですか。

ここ数日、体調があまり思わしくなく、食欲もなかったりして、仕事のペースを落としつつ（〆切は気にしつつ）過ごしています。幸い、折にふれて祈ることはできるので、主に支えられつつ歩んでいます。

疲れが抜けないのは年かなあ、などと冗談混じりにある方と話したら、「結城さんはまわりに気を使いすぎでは」という返事が返ってきました。ふうむ。まあ、確かにそうかもしれませんね。

何となく不調なときに効果的なのは、誰かをつかまえて、雑談をすることですね。特に聞き上手な人と話すのはよいです。あとは、私の場合には、町の中を目的を決めずに歩くこと。〆切に関係のないプログラムを書くこと。そして、この手紙のように、心に浮かんだことをそのまま、機械的にタイピングしていくこと。

昨晩、私は家で横になりながら、家内がピアノを弾いて聖歌（というかワーシップ）を澄んだ声で歌っているのを聞いていました。主を賛美する歌が部屋の中に満ちるというのは、とても気持ちのよいものですね。私も横になったまま、家内にあわせて歌ったり、異言で歌いながら祈ったり、そんなひとときを過ごしておりました。

疲れているときには、毎日が単調な繰り返しに感じられるものです。そこから回復すると、世界はまた日々新たな輝きを放つ。しかし、疲れているときには、それがなかなか思い出せない。いつもとペースを少し変えて、ちょっぴり自分を甘やかすのもいいかもしれませんね。

ゆっくり、ゆっくりですね…ではまた。

（にっこり）

27　つらさの中で祈る

（しーっ、静かに）
（結城です）
（あのね、仕事がね、つらくてね、いま逃避中なのです）
（くすん）

（いや、そんなにつらくはないんです。つらかったのは今日の午前中くらい）
（いまは一段落して、ほっと一息といったところ）

（あんなに午前中「やだやだ」と思っていたのは何だろう）
（と思うくらい、いろんなことがバタバタと変化して）
（いま、やっと一息ついたところなのです）

（仕事って、大変ですよねえ…）
（そうかな？）
（仕事よりも、自意識の方が大変かな？）
（自分は、これが大事、これが大切、これが大変、と思っているのだけれど）
（他の人はぜ～んぜんそんなことは思っていなくて）
（自分があれだけ悩んでいたのは何だったのかなあと思うのです）

（何回も、何回も、そういう経験はしているのだけれど）
（また同じ穴にはまってしまうなあ）
（まあ、でも、それが私だ、と受け入れてしまおうか）
（そしてもう一度神さまに「これがいまの私です」と捧げようか）

（そうだ、祈ろう）

天の父なる神さま。
あなたを賛美します。あなたの御名をほめたたえます。
ああ、あなたは素晴らしい方、完全な方、恵み深く、愛深い方。
あなたの愛を心から感謝します。
この小さき者は自分の愚かな考えで一人悩み、
あれこれと思い煩っています。
信仰薄きこの身をどうぞおゆるしください。
弱い心と細い神経ですが、
主よ、この身をあなたの御前にお捧げいたします。
主よ、これがいまの私です。
どうぞあなたの御用のため、
あなたの思いのままに私を変えて下さい。
あなたが私を形作られたのですから。
あなたが働かれるとき、私には力があります。

私のまさに弱いところにこそ、
あなたは働かれるからです。
そのことを感謝します。
この者の弱い信仰をゆるしてください。
この者が今日おかした罪、
あなたに喜ばれない思い・言葉・行いを、
すべて、イエスさまの血潮できよめてください。
イエスさまの血潮は完全です。
緋のような罪にまみれた私でも、
雪のように白くなることができますから感謝します。
そうです、主よ、感謝します。
聖霊さま、いま心を開きます。
あなたを歓迎いたします。
どうぞこの小さき土の器を、
あなたの油で満たしてください。
新しい油で、もっと満たしてください。
この者の人生を、毎日を、
人生のガイドなる聖霊さまが導いてくださいますように。
どのような状況であっても、それをあなたに感謝します。
どのような困難であっても、それをあなたに感謝します。
どこにおいても、あなたの栄光があらわされますように。
この小さき祈りを、
主イエスさまのお名前で御前にお捧げいたします。
アーメン、ハレルヤ！

（ふう…、うん、すっきりした）
（聞いてくださってありがとう！　またね！）

28　話を聞く

いまは家に帰る途中、電車の中です。いつの間にか夜になってしまいました。

結城です。あなたは、いかがお過ごしですか。

一日は短く、できることは限られている。

このプログラムを完成させて、この原稿を書き上げて、この調査のめどをつけて…などと心積もりしていても、時は夢のように過ぎていってしまうものです。

スターバックスコーヒーに着きました。私の中では、自分の過剰な自意識に目を向けないことが時に大切になります。ちょっと油断すると、世界中の誰一人として気にしていないことをくよくよと考えてしまうからですね。ごはんを食べて、落ち着いて、スターバックスコーヒーで一息ついて、あたりをゆっくり見まわして、リアルな人たちが、笑ったり、歩いたり、モカバレンシアを飲んだり、シナモンスコーンを食べたりするのをながめます。そして私ももう一度、深呼吸して「祈らなくては」などと思っています。

20 代のころ、自分のそばを時間がすりぬけていくのが悔しいような、惜しいような、そんな気持ちでおろおろしていました。いつのまにかそういう意識は少なくなりました。現在の自分は「家族への責任」ということを意識するべき、なのかもしれませんが、いつまでも私は子供こどもしていて、どこか無責任な部分もあります。

無責任、というよりも「夢見る夢子さん」な部分が動いているのかもしれません。

人の話を聞きたがっている自分がいます。「メサイア・コンプレックス」なのかな、とも思いますが、そうではないかもしれません。よくわかりません。私自身が人から話を聞いてもらいたがっているのかもしれません。

実は、今日は半日ほどコンピュータから離れて生活していました。この手紙もスターバックスコーヒーのパンフレットの裏にボールペンで走り書きしたものをタイプしなおしているのです。

何の話だっけ。

ロバ耳 (http://www.hyuki.com/roba/) っていい企画だなあ、とつくづく思います。人は聞いてもらうことが必要だからです。もっとこういうページがネットに増えればいいのにと思います。

昔、「易者」になりたいと思ったことがあります。もちろんクリスチャンなので占いをしたいと思ったわけではないです。小さな席を道に作り、人の話をただ聞くという仕事。ただ、聞く。何もアドバイスしないし、何かを解決してあげるわけでもない。ただ、相手の話に耳をすます。いつ果てるともない誰かの話に耳をすましたいと思ったりするのです。

キラキラしたアドバイスをして、相手が感動するというのを求めているわけではなく、ただ、聞きたい。

相手は誰でもよくて、相手は私の方には何も期待しない。ただ、聞き手が

存在していて、話題は何でもよくて、何を話しても怒られたりしない、という状況に、私はなぜかとても意味があるように感じるのです。

29　この世を旅する旅人

こんばんは。結城です。暑いです。

いかがお過ごしですか。

里帰り出産していた家内が帰ってきて、次男（赤ちゃん）がやってきて、めまぐるしい日々が続いています。忙しいですけれど、感謝なことです。ムーニーの大きなパッケージをかかえて階段をのぼるとき、ふと、しあわせを感じたりします。

長男（５歳）は、年が離れているせいか、特に次男に嫉妬したりするようすはあまり見えず、むしろべたべたにかわいがっています。結構なことですね。

仕事もあれこれと忙しいですが、楽しみつつやっております。

先日、駅のホームに立っているとき、ふと、とても大きなパースペクティヴで自分の人生を感じました。いま私は36歳で（主の恵みがあれば）あと数十年この人生を生きていくのだな、と。その間、さまざまなことで、悩んだり、喜んだり、泣いたり、笑ったりするだろう。多くのものが私の傍らを通りすぎていくだろう。けれど、いつか、神の定めたときに、私はイエスさまによって天に引き上げていただくのだなあ、と思ったのでした。

確かに、私はこの世を旅する旅人だ。懸命に旅をするのだけれど、最後の最後はなつかしの我が家に帰るのだ。旅の最中、真剣に歩くのだけれど、その途上で出会ったものに必要以上に心をとめすぎてはいけないのだ。

いつか、私は、鷲のように天に上るのだろう。イエスさまの愛に抱かれて。いつか、私は、この小さくて不完全な体を脱ぎ捨てる。神様から完全な体をいただくのだ。

だから、それまでは、このいとしき私の人生を歩んでいく。イエスさまに対する信仰を得て歩むとき、人生は天国へ至る道のように思われる。

旅が不自由なのは当然のことだ。旅なのだから。身にまとうものや手荷物は厳選し、必要なものだけを携えよう。さもないと軽やかに歩むことができない。一番重い荷物はプライドかな。

実存的な不安？そう、それがあるのは当然のことだ。それは旅の途中で感じる不安なのだ。

でも、大丈夫。自分が最後にどこに至るのかをしっかりわきまえていれば。そして私とともに歩んでおられる方、私のうちにおられる方、私の上に霊を注いでくださる方にしっかりと目をとめ、耳を傾けていれば。

この世のものはみなうつろい、みな過ぎていく。でも、神様はかわることがない。

すべての人は草、その栄光は、すべて野の花のようだ。主のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。（イザヤ書40章6節〜8節より）

いつも私のひとりごとを聞いてくださって、ありがとうございます。あなたの上に主の恵みと祝福が豊かにありますように。

おやすみなさい。